

2.1 署名

取扱説明書全部に目を通してください。

本機械での作業に従事する人は、本取扱説明書に完全に目を通し、取り扱い内容を理解をした上で、作業を開始してください。作業を開始する前に、取扱説明書に目を通したことを確約するために、ここに署名をしてください。

私は本取扱説明書を読み、取り扱い内容を理解しました。

日付：署名：

所有者：

作業担当者：

.....

2.2 一般安全規則

・本機を操作する上で、正しい使用法を守ってください。機械を本来の目的以外、または誤った方法で使用すると、大変危険ですので、絶対にお止め下さい。

・本来の用途以外の使用により生じた損害に対して、メーカーは一切の責任を負いかねます。この場合に生じた障害や損害については、本機の利用者が責任を負うこととなります。

・作業開始前には、安全装置の状態を確認してください。毎日行ってください。

・修理やメンテナンス作業のために安全装置を取り外した場合は、機械の運転前に必ず安全装置を元通りに取り付けてください。

・各装置や安全装置を取り外したり、交換したり、または機能を停止させないでください。

・耳栓および、安全メガネを着用してください。

- ・機械運転中に、帯ノコの緊張を緩めないでください。
- ・加工中に、ローラーフェンスや送りローラーの位置を動かさないでください。
- ・加工中に、ローラーフェンスを上下させないでください。
- ・投入材の後側には、立たないでください。
- ・加工中は、送り位置を上昇させないでください。
- ・材が詰まったときは、ムリに材を押し出さないでください。いったん機械の電源をオフにしてから、詰まった材を取り除いてください。
- ・機械作動中に、送材エリアをのぞきこまないでください。木片の跳ね返りの危険があります。
- ・詰まりを取り除く前に、機械のスイッチをオフにし、すべての回転部分（刃物、送りベルト等）の動作を停止させてください。
- ・機械から離れる前には、メインスイッチをオフにしてください。

2.3 機械

2.3.1 概要



- ・各装置の脱着作業、メンテナンス作業、修理作業を行うときは、必ず電源を切ってから行ってください(一次側の電源も遮断し、メインスイッチが不意に入ってしまうよう、警票を掲げてください)。
- ・すべての安全装置を取り付けて、すべてのカバーを閉めてから、機械を始動させてください。
- ・帯ノコが確実に固定されていることを確かめてから、機械をスタートさせてください。
- ・送材エリアに手を近づけないでください。
- ・集塵装置が取り付けられていない状態では、機械を運転させないでください。
- ・切り屑等の集塵装置について、集塵管を正しく接続し、必要なエア風速やエア風量に設定してください。
- ・機械に送材中の木材の後側に立ち入らないでください。
- ・加工中の材が詰まっている状態で、次の木材を投入しないでください。
- ・機械を開けて、材の詰まりを取り除きます。
- ・機械運転中は、送材エリアに身体を乗り出さないでください。飛んできた木片で、ケガをするおそれがあります。
- ・機械から離れる前に、電源をオフにし、ノコ刃の緊張を緩めてください。

2.3.2 騒音レベル

- ・作業現場の騒音レベルは、ISO7DIS 7960, Annex JおよびISO7DIS 3846:1992 に準拠しています。詳細は第3章「技術情報」に記載しています。

2.3.3 電気系統

配電盤内などで電気関係の作業をする際は、以下の安全ルールにしたがってください。



- ・電気機器に関する作業は、資格のある専門の方のみが行ってください。
- ・電気作業を行う前には、必ずメインスイッチを切ってください。また、スイッチが不意に入ってしまうよう、警票を掲げてください。
- ・電気部品の交換や修理作業の後は、機械を始動させる前に、本機の安全装置（アース線等）が必ず適切な状態であるか確認してください。
- ・リミットスイッチ等の安全装置を、取り外したり、機能を無効にしたりしないでください。

2.3.4 ブレーキ

本機には、安全のためブレーキモーターが搭載されています。ノコ駆動モーターの停止ボタンや非常停止ボタンが押された瞬間、ただちにブレーキが作動して、モーターの駆動を止めます。ブレーキの動作状態を定期的に点検してください。ブレーキ動作が不良の状態では、本機を運転することはやめてください。

2.4 帯ノコ



- ・ノコ刃は鋭利なため、機械停止中でもケガをするおそれがあります。刃物の取扱には十分注意してください。また、決して回転中のノコには近づかないでください。
- ・本機には、推奨パーツ以外の帯ノコは使用しないでください。
- ・基本的に、3～4時間運転した後、帯ノコを交換してください。とくに刃に問題がない場合でも交換が必要です。取り外した帯ノコは、6時間以上、休ませてください。
- ・機械を休止させるときは、休止時間にかかわらず必ず、ノコ刃の緊張を完全に解除してください。冷却するノコ刃に過大な負荷を与えないための、**大事な処置です**。
- ・機械操作の終了後、ノコ刃に付着した潤滑油が乾かないうちにノコ刃を掃除するようこころがけてください。早めの清掃で、油膜を容易に除去することができます。
- ・帯ノコとノコ車の中に、切り屑が入らないように維持してください。ノコ刃とその周辺は、常にきれいにしておいてください。

帯ノコを取り付ける前に、次のことを確認します。

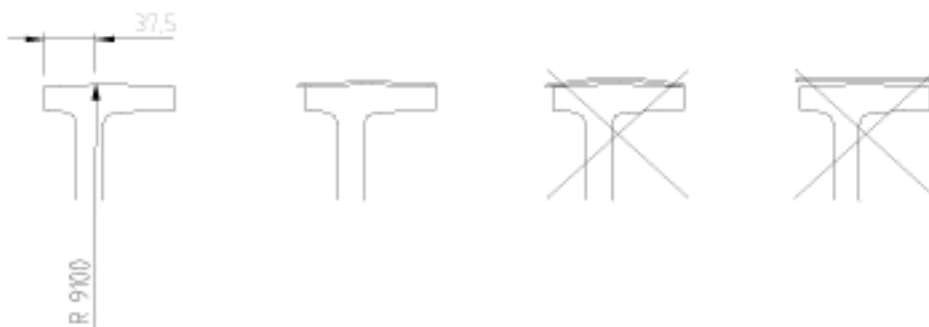
- ・使用する刃に、欠けや変形などがいないこと
- ・鋭利な刃先になっており、汚れや切り屑等が取り除かれていること
- ・スクレーパーおよび潤滑油パッドが摩耗しておらず、ノコ車と正しく接触していること
- ・ノコのガイドブロックに損傷がなく、適切できれいな状態であること
- ・ノコ車に損傷がなく、適切できれいな状態であること
- ・タンク内に潤滑液が十分入っていること

2.4.1 帯ノコの取り付け

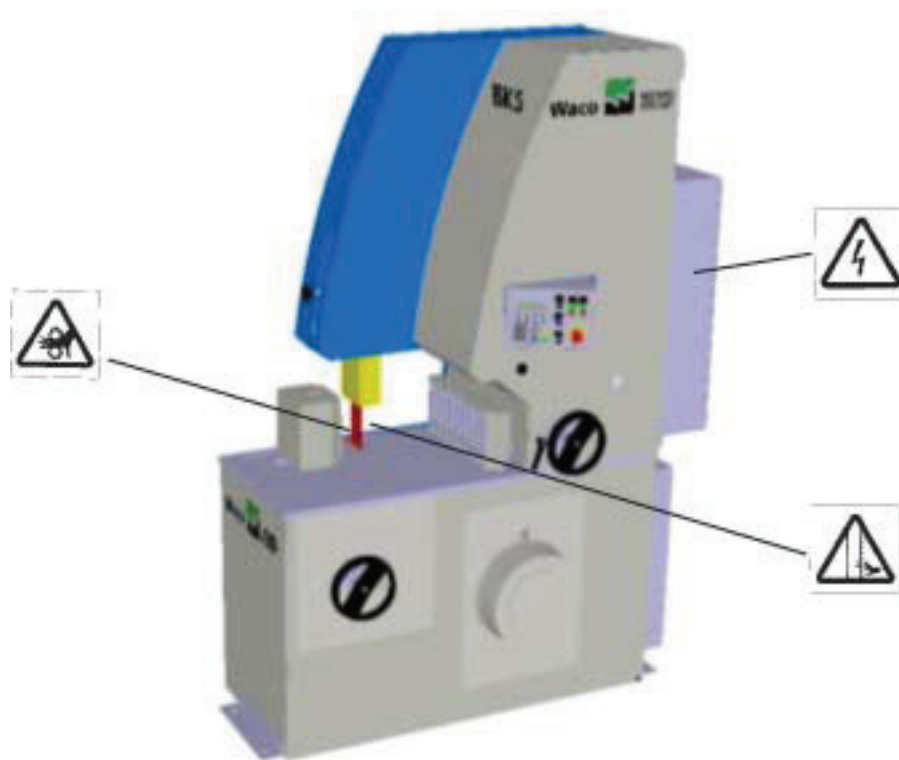
- ・ノコ刃を交換する前には、必ず一次側の電源を遮断し、メインスイッチを切ってください。また、スイッチが不意に入ってしまうよう、警票を掲げてください。
- ・帯ノコを取り付ける前に、ノコ車、ガイドパッド、スクレーパー、潤滑油パッドをきれいに清掃します。
- ・帯ノコをノコ車に取り付けて、帯ノコを75%程度に緊張させます。
- ・下のスクレーパーがノコ刃に正しく接触しているかを確認します。
- ・カバーを閉じます。
- ・試運転を行います。ノコの正面にある点検窓からのぞいて、ノコ刃とノコ車が正しく回転していることを確認してください。帯ノコの刃が、上下のノコ車が作る接線から外側に3～5 mm出た状態が正しい取り付け状態です。
- ・次に、ノコをフルスピードで動作させ、ノコ刃とノコ車が正しく回転していることを確認します。必要に応じて上部ノコ車を上下に調整してください。
- ・上下のノコ車の回転が均一で、振動などしていないことを確認します。
- ・この状態でノコを5分間空運転した後、帯ノコを完全に緊張させます。
- ・帯ノコに十分に潤滑油が行き渡るよう、ドリップグラス内の液量を確認し、滴下量を調整します。
- ・初回挽きの木材は、低速で投入してください。
- ・15分間空運転を行ない、帯ノコの緊張具合を確認します。

帯ノコの推奨緊張力：

帯ノコがノコ車の上で安定するよう、帯ノコの緊張力を300 barまで上げることを推奨します。エアメーターを見て、緊張力が300 barになるように設定します。これは、ノコ幅100 mmの場合の刃先部で90 N/mm²、反対側で70 N/mm²に値します。



2.5 危険箇所



危険！必ず、電気関連規則の知識を有する、資格のある電気技師のみが、配電盤およびコントロールパネルのドアを開けてください。

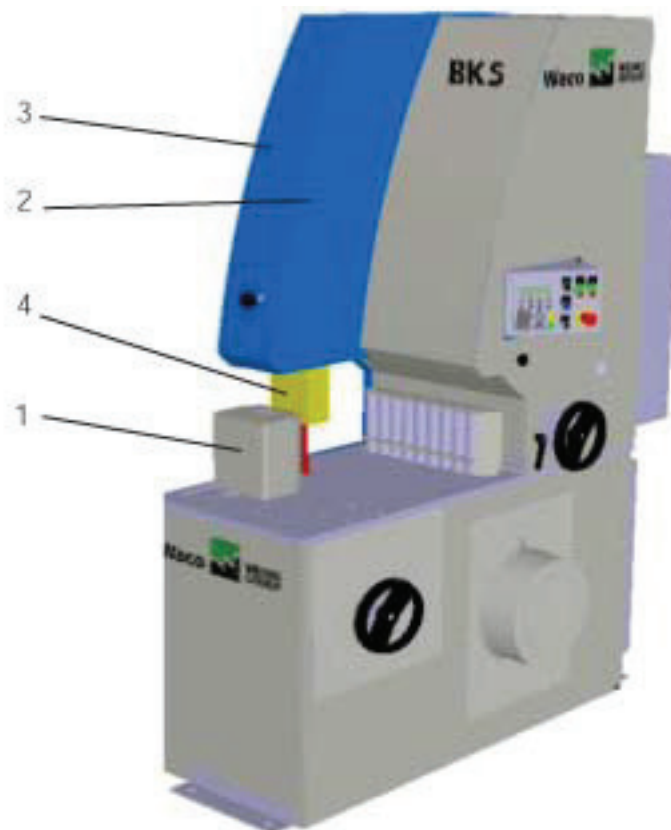


送りローラーに、巻き込まれる恐れがあります。



ノコ刃には、切断の危険があります。交換時には皮手袋などを着用してください。

2.6 保護装置、安全装置について



上記の保護装置は、正しく機能する状態で、次に説明する適切な状態にしておいてください。保護装置が故障中または安全機能を確保できない状態で、機械を作動させないでください。

1. 送りローラーを覆うカバーが、しっかりとボルトで固定されていること。
2. 点検窓が、閉まっていること
3. カバーが閉まっており、次の条件でインターロックが正しく装備されていること。

カバーは、以下の条件が揃っているときのみ、開放することができます。

- a) 機械の電源がオンになっているとき。
- b) 帯ノコが静止状態にあることを感知したとき（タイマー）。

4. スライドガードは、できるだけ下まで下げてください。

2.7 インターロック

背面カバーは、安全のためにインターロックスイッチが装備されています。

背面カバーは、次の条件で開放することができます。

- ・インターロックスイッチに操作電流が流れ、スプリングボルトが開状態となった時。
- ・ノコ車のブレーキが作動し、ノコが完全停止状態となっている時 (制動時間をタイマーで指定)。

ドアが開いている時

背面カバーが開いた状態では、ノコを駆動させることはできません。

ドアが閉まっている時

送りローラーを作動させる前に、ノコを回してください。

ノコ駆動用のモーターがオフの状態では、送りローラーは起動できません。

